Vol.03 2016/01/21
le bois d'hanyu
特定非営利活動法人　羽生の杜

私も羽生の杜を応援しています！

“寒”だというのに雪が無い。“こんな年は初めて”と 90 才過ぎのオバーさんが言う。ボクが新潟で暮らすようになったのは大学生の時だから、47 年になる。群馬で育ったボクは“新潟に行ったら冬は 2 階から出入りして、電線をマタいで通るんだ”と思い込み、楽しみにしていた。が、海岸ぞいの新潟市は、多い時でも膝くらいまでの雪だった。それでも、12 月中旬から 3 月初め頃までは根雪となり、道路のワキには、いつも雪があった。

ところが、ここ 10 年程、雪がめっきり少なくなった。時々、ドサッと、まとまって降ることもあるが、数日すると消えてしまう。“あの雪”たちは、何処へ、行ってしまったのだろう。

農家の人たちは“大雪の年は豊作、少ないと夏、水不足が心配だ”と言う。しかし、園場整備された平地の田園では、水に困ったという話は、あまり聞かない。山の湧水で作っている。ボク等の狭い棚田では、ここ数年、水不足で、田植えができない事もある。ダムで水を確保している所は大丈夫だが、そうでない所にしわよせがくる。これも自己責任なのだろうか…。

昨年末群馬の実家に行った折、あしをのばして羽生に顔を出した。かがやき君も緑さんも不在だったが、その日は“忘年会で、来る年の目標を語り合う、というので、ボクも飛び入りで参加させてもらった。最近、地域の人たちとのつながりを模索して、コンサートをしたり、子どもや子育て中の親子に声をかけてイベントをやり、手応えを感じている。ここは敷地も広いし、自然も残されているので、それを生かしたい。子どもは動物が好きだから、ヤギだけでなく、いろんな動物を飼ったらいい。犬や猫だけでなく。隣の養鶏場が止めるというからニワトリ 200 羽くらいもらおうか。羊はどうだろう、ナドナド。しまいには、木々の間からキリンが顔を出したら楽しい。それなら泥沼のような池にワニを放したらビックリするだろうナ。

子どもだけでなく、年寄りも気楽に立ち寄れると良い。年寄りだったら風呂にかぎる。庭園風の干乾びた池の跡があるが、そこを露天風呂にしよう。ゴミや枯木を燃やしてお湯をあたためチョロチョロと入れればいい。竹で目かくしも必要だ…。
目標というか“ゆめ(理想)”はどんどん広がる。楽しいひと時であった。まゆずみさんも是非“NPO”の活動に協力を！と声をかけられた。こんな楽しい活動であれば、是非ボクの方からも参加させてもらいたいと、二つ返事でこたえた。佐渡でも、羽生でも、“地域を(に)拓く”活動、はてさて、どうなっていくことやら…、楽しみである。

まゆずみただし（佐渡のひと／医者）

「羽生こみゅこみゅ」は いま

上：須美杏子さん　下：富樫勝彦さん

「羽生の杜」はほぼ半年の準備期間を経て１０月３日（土）にオープニングコンサートを開催し第一歩を踏み出しました。グラフィックデザイナー山家さんの協力で素敵なチラシ（Ｂ４）が出来上がり６０００枚を新聞折り込みで配布し１０００枚を近隣にポスティングして当日を迎えました。菅原真美さんの手作りカレーとケーキ、甲府のワインなど仕込みは万全でした。

当日出演のアーティストのお二人も午後には羽生入りして待機。ご近所のライブハウスのオーナーがチラシに誘われてのぞき込み、当方のあまりにも貧弱な P.A 設備に驚きご自分のお店から急きょ完璧な P.A 装置を持ち込んでくださった。あとは開演を待つのみです。認知度ゼロのこの場所にどれほどの地元の方々がお見えになるのかドキドキものでした。開場前から数人の方々が入り始め開演時には２５名の地元の方々が来場くださいました。応援の仲間たちやスタッフを加えると４５名に膨れ上がり会場は出演者のトークや歌声で熱気に包まれ盛り上がりを見せたのです。出演者の須美杏子さんは 80 才で現役のシャンソン歌手で、定期的に都内でライブ活動をしており、70 才の富樫勝彦さんも現役で都内のライブハウスで歌い続けていらっしゃる現役歌手です。「高齢者の高齢者による高齢者のためのコミュニティ広場」にふさわしいコンサートになりました。

・羽生こみゅこみゅ

１０月５日から月、水、金の３日間「コミュニティ広場『羽生の杜』(羽生こみゅこみゅ)」を開催してきました。延べ 20 数名の地元の高齢者が日に１～3 名集ってこられます。3 か月弱の「広場」実施で知り得たことは、集まってこられる方々の多くはここで何かを「受ける」ことを期待しているのではなく、「参加し、できることは何か、楽しいことは何か」を探している方々であるということでした。養蚕を営んでいた方、嘗ては田畑を持っていて高齢になり後継ぎがなく手放した方、地元が誘致した企業で働いていた方、孫の世話や自前の畑で日々の野菜を収穫して食卓を豊かにしておられる方など、事情は様々違いながらも「自分の人生をどう楽しく生きるか」を考えておられることにおいて共通する方々が集まっていることを実感しました。

囲碁クラブで教える丹波二三夫さん

・羽生の杜という 「場」

要は私どもが何かを提供できるとすればまず第一に「場」であり、その「場」を活用して人と人がつながる仕組みを作り出すことではないかということです。コミュニティーデザイナの西上ありささんが北海道根室市にあるお寺の再生に取り組んだ経験から「人生 90 年代に、自分の人生をどう考えるか。『みんなの生き方ラボ』と題した講座を開いて、年齢を問わず地域の人たちを境内に招き入れた」と語って

おられた記事を読みました。私どもが目指す方向もこの路線ではないかと考えております。何かを提供しようとすればどうしてもニーズは何か、どれだけの人が集まるか、その資金はどうするかという具合に考えてしまいます。「『人が集まる』という本来の機能」をここに取り戻すことで課題が何であるのかが見えてくるような場づくりを模索しているところです。企画を立ててそれに乗っていただくほうがスムースに事を運べるのかもしれません。いま考えていることは時間をかけてこの場をどのように活用していただくか手探りしながらそんななかから何かを生み出すことができたら嬉しいと考えてます。

夏休みに実施した子どもたちを森に招いて一緒に遊び宿題もやろう「おいでよ！はにゅうの森」も冬休み企画として 3 日間の企画を立てました。詳しくは伊早坂さんの報告に譲るとして、行事のない日も山羊さんと遊びたいといって子どもづれのお母さんたちが森を訪れてくれるようになったのも「おいでよ！羽生の森へ」の果実です。森のなかで遊ぶ子どもたちの声が聞こえてくるとほっとする気持ちになります。

豊作だった杜の畑産「紅あずま」

畑の耕作は未経験の杉野さんが小田原緑さんの力を借りつつ奮闘して夏野菜を作り、それが終わり次は秋、冬野菜に取り組んでいます。星山理事長は自分の職場を中心に収穫した野菜をせっせと売ってくれてます。購入してくださる方々は半ばカンパのつもりで協力していただいているものと感謝しております。

年度内のイベントはあと一件で、噺家の「立川志らべ」さんを呼んでの落語会を開催します。真打を目指している若手噺家のホープです。この森の認知を得ることを最優先して今年度は精力的にイベントを企画してきました。来年度はお集まりくださった方々をコアにして戦略的に企画を練っていく必要があると考えてます。

・今後について

活動開始からの 3 か月間、多くの方々にいろいろな形で応援していただきました。心から感謝しております。実際の活動から見えてきた課題は多々ありますが一朝一夕では到底実現できるものとは考えてませんので、着実に地域に密着して試行錯誤を続けなければならないと思っております。それと同時に今年の「羽生の杜」の課題は経済的な自立を確立することが喫緊の課題です。そのためにはどのような収益事業を立ち上げればよいのかいろいろ思案しておりますが、当面新たに二つの収益事業を立ち上げる予定で準備に取り掛かります。

応援者の一人「数独」の鍛冶真起さん

老若の樹木が混然一体となった森

第一に「樹木墓」の建立です。大きな森の片隅に 150 坪程度の樹木墓を作ることを考えております。近年の少子化、核家族化の流れで「お墓をどうするか」という問題は深刻な社会問題（家族間問題）にまで発展してます。年金生活で何とかやりくりしているものにとって墓地の価格の高騰は本人はもとより家族にとっても悩ましい問題の一つです。それとこれまでのような墓地を購入してそこに納まるのではなく、好きであった海

や山に散骨を希望する方々も増えている状況にあります。人はやがて土にかえるのだから自然の土に静かに眠りたいという考え方も多くなっているようです。ここ羽生の森はそのニーズにこたえる充分な環境を提供できるのではないかと考えてます。知り合いの葬送コーディネーターやデザイナーと相談してこの森にふさわしい素敵なお墓を考えたいと思っております。

第二に「ハム作り」を考えてます。幸い長い経験を積んできたハム作り仲間がおりますのでそのノウハウを提供いただき本格的なハムを作って近隣はもとよりレストランや社員食堂などにも供給する体制を確立したいと考えてます。そのための厨房や燻煙設備などのインフラ整備はボランティアとして協力いただける専従者が幸いに確保されてます。美味しいハムやソーセージや燻製類など羽生の杜ブランドが期待できるものと確信してます。

第三に、これは本来の NPO の事業にもなりますが不登校の子どもたちの塾を開校することを念頭に準備を開始します。この意図と内容については伊早坂さんの文章に譲ります。

志や夢はあるものの現地スタッフは初めて体験することばかりです。コンセプトを具体的な形に落とし込むアイデアが必要とされてます。これからもよろしく応援くださいますようお願い申し上げます。

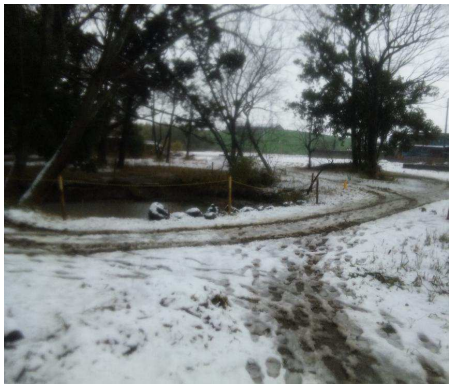
事務局長　田村信征

なにも難しいことはしていない

ホウレン草 と 北風の吹く青空

ここ数日は北風が強い。暖冬と聞いてはいたけれど、12 月の上旬になっても蝶々が幾匹か舞っているのには驚いた。それでも冬は雑草の勢いが大きく弱まり、野菜に集まる昆虫たちも徐々に姿を消していく。羽生は平野部で、遮蔽物が極端に少なく視界に空が広くとれる。高層ビルも鉄塔も高架もほとんどない。北の遠くには栃木の山が見える。晴れていれば太陽が朝夕の空を鮮やかに染めてくれる。ただ朝晩は寒い。

思うところがあって夏までの作業日誌を読み返してみた。かなりガサツに、日々の記録が畑の見取り図を中心に、ノートに飛び飛びに書き散らしてある。秋・冬野菜が畑を占めるようになって 2、3 か月が経つけれど、それより少し前までは夏の野菜がここに生えていたんだよな、と思う。冬を迎えた今となっては、もうずいぶんと前のことみたいに感じる。毎日のように外に出て草刈りや整枝剪定をしながら過ごしていると、野菜の記憶は季節のそれと共に残ることになるみたいだ。夏場は、日照りが続いて乾ききった土に水をまきながら、蝉の声、蚊の羽音にはじまり、大小さまざまの無数の生きものであふれかえる音をきいていた。汗をかき続けて一日にバケツ 2、3 杯分のお茶を飲み干し、手ぬぐいを何度も水道水で濡らした。こなさなければいけない作業量に対して時間の余裕はあまりなく、体力的にもそれなりにきつかったけれど、曲がりなりにも野菜が育っていってくれると、



たった一日でも「雪下にんじん」？

報われる思いがした。そんなふうにして春・夏の野菜たちを眺めていたから、近所のスーパーでトマトやナスやピーマンが並んでいるのを見ると、今ではちょっと奇妙な気分になる。羽生の杜の周辺は広く田園地帯で、近所の人たちの多くは私有の畑で野菜を作って自分たちの消費分の大部をまかなっている。きっとなにも難しいことはしていない。手間さえ惜しまなければ、人の力と自然の力の多面的な差異を見極める姿勢があれば、野菜作りは楽しみながら気分よくできる。

・新しい形の交わりの場

焼きたての芋、お一ついかが？

秋以降、ここを訪れる人の数が少し増えた。NPO のホームページやイベントのチラシを見たというひとがほとんどだけれど、その後のかかわり方はさまざまだ。散歩道のコースに通り抜けていきたいという人がいる。大工をやっていたから、何か作業を手伝いたいという人がいる。遠くの教会からわざわざ出かけてきて助っ人になってくれる人がいる。個人的な所感としては、これはたいへんにありがたいことで、また嬉しいことでもある。毎日一人で野良仕事をしていると、どうも厭世的になってくるというか、人間が偏クツになっていくように感じることがある。田畑に引きこもる、とでもいえばよいのか、田舎が保守的で排他的といわれるのも、わからないでもない気がする(テレビで映される田舎暮らしは、あれはきっとそこにカメラがあるからなのだろう)。けれど最後は人と人とが関わるわけだし、前時代的なムラ社会や百姓の姿を再現するつもりはあまりない。先達の知恵を基礎から謙虚に学びたいと思いつつ、農と共同体の二点から、時代にあった姿かたちを求めてみたい。建物・森・田畑が一体になったこの NPO を、町の人々とどのように新しい形の交わりの場としていくことができるのか。その探求の一端に、農作業を主として関わることができるのを、今一度うれしく思う。

スタッフ　**杉野 輝**

子どもたちに森の遊び場・学び場を③

シイタケ畑で理事長と鬼ごっこ！

羽生の杜の特徴の一つは、名称の由来にもなっている森にあります。そこには様々な楽しみ方があり色々な年代の方が訪れる中、現状で森の自然を一番楽しんでいるのは子どもたちではないかと思っています。

羽生の杜プレオープン企画として昨年の夏休みに、地域の子どもたちと共に過ごす森の遊び場・学び場「おいでよ！はにゅうの森」を開催しました。午前中は宿題に取り組み、畑で採れた野菜を使った昼食を食べ、暑い午後は森の木陰で遊ぶプログラムです。そのどれもが有意義なものではありますが、「入ればすぐそこに森がある」ことが羽生の杜の類まれな宝なのです。保護者の方々も「こういう場所が少なくなってしまったのでぜひここで遊ばせたい」と賛同してくださり、たくさんの子どもたちで大賑わいの夏となりました。(冬休みの報告はホームページをご覧ください。http://www.hanyunomori.org/)

森の木や竹で造った遊具には自然そのものの良さがあるものですが、大きく揺れるブランコやハンモ

ック、竹の平均台などに子どもたちの人気が集まりました。これは「危ないから」と公園などから遊具がどんどん無くなっている為でしょう。本来、子どもたちは「万が一」の大きな事故を避ける感覚を身につけるために、小さな「百が一」を繰り返してゆくものです。しかし最近は社会全体がそれをさせなくなりました。自然環境そのものの減少だけでなく、見守ってくれる人がいないと自然の中では遊べなくなってしまったのです。

焚き火の扱いも 大切な森での学び

自然の中で育まれる「知恵」もある

自然の中での遊び・学びは子どもたちにとって必要な体験です。「危険だから」と自然環境や動く遊具での遊びを禁止するのなら、いったい何を通して危険の感覚を養ってゆけばよいのでしょうか。池での魚･ザリガニ捕り、不用意に近づけば頭突きをしてくるヤギとの遭遇などなど。危険をあらかじめ全て排除するならばできない体験に夢中になる子どもたちの姿を見ていると、やはりこの森は宝なのだという実感がわいてきます。

子どもたちと森を繋ぐこの企画には課題も残されています。見守りながら自然遊び・学びを伝えるスタッフをどう確保してゆのくか。公的補助がまだない中で活動費用をどう捻出してゆくのか。購入時の借入金をどう返済しつつ森を維持してゆくのか。一人でも多くの方のご賛同とご協力をいただきたいと願うばかりです。

・”不登校”の子どもたち”の支援を開始

秘密基地にまさる居場所は少ない

加えて 2016 年はいよいよ”不登校”の子どもたちの居場所づくりの支援を実体化させてゆきます。この企画の呼び名自体にもいくつもの課題が現れていますが、いわゆる”不登校” の子どもの実情は多様です。学校なんかには行きたくないという子もいれば、教師や同級生からのいじめが原因で行きたくても行けない子もいます。真面目に頑張りすぎて突然体が動かなくなる子もいます。そのような実情をオブラートに包んでまとめてしまう”不登校”という名づけですが、伝わりにくいが為に「不適応児童･生徒」という一方的な価値観にくくられ易いものです。羽生の杜では”世間でいう所のいわゆる”という” ”記号をつけずにはおられません。

居場所探しではなく 居場所づくりを

「居場所」という言葉にもさまざまな意味合いがあります。単純にスペースのことを指すだけでなく、居てもいじめで苦しめられない場所から好んで居たい場所まで、じつに多様な居場所が求められています。平日の昼間に街を歩ける子もいれば、人間関係で傷ついて家を出られない子もいる中でどう居場所づくりを支援していくのか。この点については、羽生の杜に集っての支援と家を訪問する支援を組み合わせてゆく計画です。そして居場所づくりの大きな目標は「自分で自分の居場所をつくり出す」ところにあります。どんなに快適な場所をこちらが提供しても、自分でつくり出した場には

かないません。ですから森の自然に癒される体験から始めつつ、森の一画に自分たちで居場所をつくる活動へと進んでゆく予定です。

いつの日かには「国の将来を担う人材として学校へ行く義務がある」という価値観に子どもたちが悩まされない為だけでなく、「学校に負けないほどの魅力がある選択肢」へと発展させてゆきたいと願っています。”不登校”であることに悲観した子どもたちが、夏休み・冬休みの最終日に自ら死を選ぶような悲劇を一つでもなくして行きたいのです。その夢の実現は一人でなしえるものではありません。重ね重ねとなりますが、皆様のご賛同とご協力をお願いいたします。まずはお気軽に遊びに羽生の杜へいらして下さい！

スタッフ　伊早坂 貴宏

ご支援ありがとうございます

寄付･寄贈者氏名、団体名
(2015 年 7 月 1 日～2016 年 1 月 20 日に当 NPO へ寄付・寄贈をいただいた方。敬称略・順不同)

山口聡子、佐藤研、皆川学、田中博明、松原康彦、桐村剛、水谷保孝、橘幸子、宇野稔、町田恵子、益永陽子、小糸健介、安田和人、大野ひろ子、内藤隆、前原喜久男、金子唯雄、一瀬敬一郎、石井悠、真下源子・弥生、西巻昭、桃井和馬、坂田孝二、足立こずえ、岩浅武久、小西弘泰、新喜昭、吉田忍、村田充子、中西昭雄、横山潤、飯田静代、黛ただし、鈴木誠一郎、広岡晴夫、島しづ子、篠崎蕗子、千葉宜義、小林明、林裕子、深川教会、川端みさ子、吉井景子、原宝・直呼、櫻井淳子、高野光祥、山口尭嘉、丸山純･桜田史子、NPO 法人あいファーム、昆善起･百合子、二宮教会ｶﾞﾘﾗﾔ会、移川早苗、須郷敏子、調 満智子、山田美千子、宮崎詠子、富山三保・砆三男、村上満里子、大川大地、武藤誠、立石和弘･光江、和田献一、移川早苗、植村益子、鈴木京子、渕之上尚己、村田充子、谷村徳幸、西山美津子、草加教会、三吉明、飯島信、平野良子、鍛冶真起、及川勲、長谷川貞男、岡本碩祇、小林明、橋詰華子、代々木上原教会、北松戸教会、河田恵、鈴木秀信、鈴木和子、飯光、匿名 1

ご支援よろしくお願い申し上げます

NPO 法人「羽生の杜」は活動２年目に入りました。多くの方々のご支援をいただき何とかここまで支えられてきました。今年は財政的な面からいえば「自立」することを目標にしております。その大きな柱はハム作りですが秋口には皆様に高品質のハムをお届けしたいと準備に取り掛かっております。もう一つ柱を考えてますが見通しを立てたうえで公表したいと思ってます。ご期待ください。私どもの活動は「羽生の杜」ホームページにおいてウイークリーでアップしておりますのでご覧いただければ幸いです。まだまだ試行錯誤の状態で皆様のお力を必要としております。財政、資材、人材、知恵などご協力いただけますよう心よりお願い申し上げます。

郵便振替口座：00130-0-419749 特定非営利活動法人 羽生の杜

※賛助会員も募集しております
個人 一口 年/　５，０００円（何口でも可）
団体 一口 年/１０，０００円（何口でも可）

※中古印刷機･コピー機、スポーツ用品、楽器、乳幼児玩具、絵本、リヤカーなどを求めています。ございましたらどうぞご連絡ください。

イベントの予定

３月　落語を愉しむ　噺家　立川志らべさん
今春　講演会　高齢者社会に向き合う　講師：星旦二さん(首都大学東京客員教授)
順次　第二回コンサート with てまり長谷川貞男さん

あとがき

夢想ばかりが膨らむ NPO ですが、ゆっくりと進み始めています。地域の皆さんも、今は期待というよりも「心配」で見ていられない我々の様相に力を貸してくださり、助けられながらの歩みですが、このご支援にお応えすべく全力で夢想を現実へと、なすべきことをなしてゆきます。専従スタッフ 3 名のうち 2 名は無償で、有償であってもアルバイト以下の賃金で働いています。またボランティアの方々にも助けられています。知恵を出し合って安価で生み出すことで乗り切っていますが、限界もあります。どうぞ私どもの働きにご支援賜りたくお願い申し上げます。

理事長　星山京子

特定非営利活動法人　羽生の杜

埼玉県羽生市桑崎 1331-2
Tel/Fax 048 538 4585
URL：www.hanyunomori.org